

山梨平和ミュージアム—石橋湛山記念館—

「伝えたい戦争の記録・記憶を」との市民の声を結集し、2007年5月に開設した民間の博物館です。前身の市民団体「山梨県戦争遺跡ネットワーク」の10年間の調査や資料収集を経て、約800人の市民の賛同金で設立しました。

1階は戦争と平和がテーマ。1945年7月の甲府空襲について、亡くなった1127人全員の名前を記載したパネル、元日航機長・諸星廣夫氏と米軍B29飛行士との交流で明らかになった実態や歴史を伝えています。スペイン・ゲルニカや中国・重慶などでの戦略爆撃の歴史や、フィリピン・レイテ戦でほぼ全滅した甲府連隊の歴史も紹介。当時の教科書やパネルなどで戦時下の教育や暮らしぶりを示すコーナーもあります。2階は、山梨県で育った石橋湛山（1884～1973年）の生涯と思想を展示する全国唯一の記念館。東洋経済新報社の記者・言論人として、大正から昭和の戦時下、平和・民権・自由主義を唱え、戦後は首相になった歩みを写真や実物資料で振り返っています。

3千冊以上の図書と200点以上のビデオを所蔵。市民提供資料が並ぶ「私の展示コーナー」も設けています。また、戦争体験者の証言や、戦争と平和に関する講演会などの講座を毎月開き、半年ごとに企画展（現在、東日本大震災10年を考える）を行っています。体験者や学習者が記録などを持ち寄る市民参加型の「平和の港」となるよう、学習、発見、交流を広げています。小・中・高校生の学習の場としても最適です。

住所 甲府市朝気1の1の30

電話 055-235-5659

ホームページ <http://ypm-japan.jp/>

休館日 火曜、水曜、祝日

入館料 大人300円、中高大生200円、小学生以下無料

2階 石橋湛山の展示

1階 甲府空襲の展示



企画展示 (甲府空襲の実相)

1945年7月6日の空襲で、1127人の市民が犠牲となり、市の中心部は岡島百貨店、松林軒を残してすべて灰燼と化した。



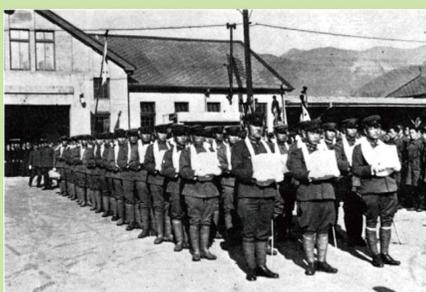
平和を願う「わたし」の展示

甲府空襲の被害少年(諸星廣夫氏)とB29搭乗兵士(ローランド・ポール氏)が60年後に交信し、空襲の全貌が浮き彫りになった。



企画展示 (甲府連隊の軌跡)

1909年から1945年までの甲府連隊の歴史を通して、15年戦争の実相に迫る。満州移駐・無言の凱旋・レイテ戦など。



山梨平和ミュージアムの目的と活動

- 1 甲府空襲、甲府連隊など15年戦争に関する資料を収集・保存・展示して、戦争の事実と実相を次世代に伝えていく。
- 2 平和・民権・自由主義を貫いた石橋湛山の生涯と思想を紹介する。
- 3 私の展示コーナーなど市民参加型の運営を重視する。
- 4 平和憲法の意義、戦争と平和に関する情報を発信・交流するセンターとしての役割を果たす。

戦略爆撃の系譜

ゲルニカ・重慶からヒロシマへ



ゲルニカ>重慶>ロンドン>ドレスデン>東京>広島・長崎>ベトナム、イラク

山梨が生んだ偉大な言論人 石橋湛山

1884(明治17)年~1973(昭和48)年

生まれは東京だが、増穂・鏡中条・甲府で育ち、中学時代(現甲府一高)に大島正健校長の感化を受ける。

早大を出て『東洋経済新報』の記者・ジャーナリストとして、大日本主義(帝国主義)に抗して平和・民権・自由主義の論陣を張った。

戦後、政治家として第55代首相に就任し、期待されたが、病のため2か月で退陣。

徹底した平和主義、リベラルで強靱な個人主義など学ぶべきところ大である。

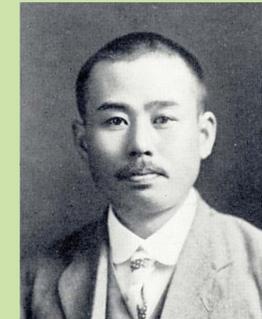
◇山梨での幼年~青年時代

◇平和・民権・自由主義を主張した東洋経済新報社時代

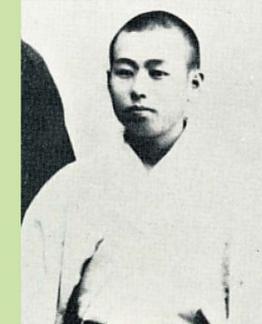
◇戦後の政治家としての湛山

◇湛山の思想の現代的意義

◇山梨県内に残るモニュメント・実物資料



「東洋経済新報」編集長時代、普選・軍縮・米穀問題等に健筆をふるったころの湛山(大正9年2月36歳)



県立中学校時代



内閣総理大臣時代